

スキルアップが
子供たちの未来を変える

The 2nd Japan Society for Auricular Reconstruction (JSAR)

第2回 日本耳介再建 研究会 2018年 11/22(木)・23(金)

会場 札幌医科大学附属病院

会長 四ッ柳 高敏
札幌医科大学医学部 形成外科学 教授

事務局 札幌医科大学医学部 形成外科学
〒060-8543 札幌市中央区南1条西16丁目291番地
TEL 011-611-2111(代)

演題募集締切

2018年
10/28(日)

第2回 日本耳介再建研究会 開催報告

目 次

- 1、 研究会日程表
 - 2、 症例検討会プログラム
 - 3、 参加者名簿
 - 4、 Photo コーナー（研究会の様子）
 - 5、 参加者の感想
 - 6、 主催者から
-

1、研究会日程表

第1日目 11月22日（木曜日）

13:00～17:30	ライブサージャリー 「小耳症 肋軟骨移植術」 場所:臨床教育研究棟1階 共用実習室 ⇄ 附属病院手術室 会場モデレーター:仙台医療センター形成外科 鳥谷部 荘八 手術室モデレーター:香川大学形成外科 濱本有祐 執刀医:四ッ柳高敏
17:45～18:30	意見交換会 場所:臨床教育研究棟1階 共用実習室 司会:札幌医科大学形成外科 四ッ柳高敏
19:30～	総合懇親会 場所:北〇(きたまる)すすきの本店 札幌市中央区南5条西2丁目 サイバーシティビル2階 011-521-1400

第2日目 11月23日（金曜日・祝日）

09:30～12:00	症例検討会 場所:臨床教育研究棟2階 臨床第一講義室 ※症例検討会の休憩時間に、集合写真を撮影
12:20～13:00	ランチオンセミナー 「先天性耳介変形の手術の実際」 場所:臨床教育研究棟2階 臨床第一講義室 演者:札幌医科大学形成外科 四ッ柳高敏
13:15～15:30	ハンズオンセミナー 「肋軟骨フレームカービング」 場所:臨床教育研究棟1階 共用実習室

2、症例検討会プログラム

開会の挨拶

札幌医科大学形成外科教授 四ッ柳高敏

演題第1部

座長 森 秀樹(愛媛大学医学部附属病院 形成外科)

1. 前年提示症例の経過報告と耳介挙上術再植皮時におけるICG蛍光造影の使用の経験

岡山大学 形成外科

○妹尾貴矢、徳山英二郎

2. 頭皮内にエキスパンダーを挿入された小耳症に対して肋軟骨移植を行った1例

香川大学 形成外科

○濱本有祐、玉井求宜、木暮鉄邦、工藤博雄、岡田真衣子、永竿智久

札幌医科大学 形成外科

四ッ柳高敏

3. 耳介低位と前方折れ曲がりを伴った小耳症の治療経験—第2報—

仙台医療センター 形成外科手外科

○鳥谷部荘八、林昌伸、伊師森葉

仙台形成外科クリニック泉中央

牛尾茂子

写真撮影(約10分)

休憩(約10分)

4. 外耳道癌術後の耳珠欠損に対する再建症例の相談

東京医科歯科大学 形成・再建外科学分野

○植村法子

5. 耳介にかかる巨大色素性母斑の治療方針について

静岡県立こども病院 形成外科

○加持秀明

6. 小耳症に対する肋軟骨移植後、皮下茎を温存したにも関わらず耳甲介部に著明なうっ血を生じた2例

札幌医科大学 形成外科

○松満紗代子、四ッ柳高敏 天王地敏雅 北田文華 権田綾子 中川嗣文

7. 小耳症に対する耳介形成術後、長期経過を経て移植軟骨への感染が生じた一例

札幌医科大学 形成外科

○工藤真未、四ッ柳高敏、箱崎茉衣、北愛里紗、加藤慎二、須貝明日香、
山下建

3、参加者名簿

*50音順 敬称略

氏名	所属
石垣 達也	千葉県こども病院
石田 創士	徳島大学 形成外科
伊谷 善仁	近畿大学医学部附属病院
植村 法子	東京医科歯科大学 形成・再建外科学分野
笠井 昭吾	琉球大学医学部附属病院形成外科
加持 秀明	静岡県立こども病院形成外科
楠目 信三	特定医療法人研精会 箱根リハビリテーション病院
蔡 顕真	明和病院形成外科
櫻庭 実	岩手医科大学形成外科（教授）
佐々木 薫	筑波大学 形成外科
鈴木 彩馨	東京都立小児総合医療センター形成外科
妹尾 貴矢	岡山大学 形成外科
高清水 一慶	信州大学 医学部 形成再建外科学教室
田中 亘	明和病院形成外科
玉田 一敬	東京都立小児総合医療センター
徳山 英二郎	岡山大学 形成外科
戸澤 麻美	愛媛大学医学部附属病院
鳥谷部 荘八	国立病院機構 仙台医療センター形成外科
濱本 有祐	香川大学医学部附属病院
本間 勉	埼玉県立小児医療センター
森 秀樹	愛媛大学医学部附属病院

全国よりお越し頂いた先生方	21名
札幌医科大学医局・関連施設医師	12名
研修医	4名
札幌医科大学医学生	3名
札幌医科大学看護師	1名
事務局	2名
合計	43名

4、Photo コーナー（研究会の様子）

□ 1日目：ライブサージャリー 「小耳症(耳甲介型) 肋軟骨移植術」

手術室と会場を「ライブカメラの映像」と「音声」でつないだライブサージャリー。会場の手元に置かれたモニターからは、鮮明なライブ映像が配信されています。ライブ映像を見ながら執刀医とのディスカッションが可能であり、活発な意見交換がなされました。また、会場後方に置かれたモニターからは、「肋軟骨採取」の様子が配信されています。



1台のモニターを3～4人の先生で、ご覧頂きました



メモをとりながら、真剣な眼差しの先生方です



会場後方のモニターからは軟骨採取の映像を配信

□ 1日目：意見交換会

今回が2回目の開催であり、まだまだ発展途中の「日本耳介再建研究会」。参加して頂く先生方と一緒に有意義な研究会を作っていくため、今後の改善点や希望などのご意見を伺っています。なお、次回の開催は、2019年11月8日(金)・9日(土)に決定しました。意見交換会で頂いたご意見・ご希望を第3回に繋げていきたいと思っています。



□ 1日目：総合懇親会

なかなか通常の学会ではゆっくりとお話しできませんので、懇親会は情報交換の良い場になったことと思います。2次会の終了時間は夜中1時、そして次の日のお水のペットボトルの消費量の多さが、楽しさと充実感を物語っていました。



□ 2日目：症例検討会

耳の治療に熱意を持った先生方が、本音でディスカッションする症例検討会。

症例検討会は、日本耳介再建研究会の目玉の一つとも言えます。

通常の学会では「成功症例」の発表が大半ですが、日本耳介再建研究会ではうまくいかなかった症例の発表や、症例相談をメインに行っています。

今までの研究や経験から様々な視点でのご意見があり、「私はこうしていますが、先生はどのようにされていますか？」といった活発な意見交換がなされました。



□ 2日目：ランチョンセミナー

「先天性耳介変形の手術の実際」ということで、本研究会 会長の四ッ柳高敏先生よりお話し頂きました。



□ 2日目：ハンズオンセミナー「人参を用いた小耳症軟骨フレームカービング」

肋軟骨に近い感触を持つ人参と彫刻刀を使用し、肋軟骨フレームを作成します。
出来上がったフレームに陰圧をかけて、よりリアルに耳の凹凸の出方を感じて頂きました。



人参の軟骨フレームに陰圧をかけます



先生方の作品。圧巻です！

5、参加者の感想

1. 岡山大学 形成外科 妹尾貴矢先生より

はじめに、研究会の準備、運営をしていただいた札幌医科大学形成外科の皆様本当にありがとうございました。

昨年と同様開催月とは思えないほど、今回は寒く雪も積もり始めており、季節の移り変わりを感じながら参加させていただきました。

ライブサージャリーは今回コンパクトな会場でしたが、集音マイクを通した見学者側と手術室との双方向性のやり取りの活性化や、小テーブルごとに見学者の近くに液晶モニターを置いて、明るく鮮明な映像が見られるよう配慮するなど、新たな試みの数々に意気込みを感じました。特に、液晶モニターを使用した場合の映像の鮮明さはとても好ましいと思いました。

ライブの手術は、今回は耳甲介型小耳症の軟骨フレーム移植でした。小耳症の手術資料というと耳の全パーツを作成する耳垂型小耳症の方がインパクトが強いのか、耳甲介型は写真や映像として我々が目にする機会が比較的に少ないと感じます。ですが、耳甲介型は耳垂型の簡易版では決してなく、患者さんの持っている元々の軟骨の使い方や軟骨フレームとのつなぎ方に患者さんごとの工夫が必要であり、自然な外観を再現する難易度はむしろ高いと感じています。そういった微妙な調整が必要な耳甲介型小耳症だからこそ、今回のライブサージャリーは、その細やかな調整の流れを見学する貴重な機会でした。手術は言わずもがな、きれいで速く、随所に詳細な解説付きで、3時間半の手術はあっという間に過ぎていきました。

症例検討会では、ディスカッションの時間がとても長くとられており、私が提示させていただいた演題では発表合わせ 30 分程も時間をかけて、多くの先生のご意見をうかがうことができました、ありがとうございます(発表も長かったのですみません)。

演題と多少異なる内容の質問でも大いに意見交換がなされ、多少なりとも小耳症に携わっている身としては普段なかなか聞けない生の意見が聞けて言い方はおかしいですがとても“楽しい”時間でした。

特に個人的には「好ましくない状態が生じた場合のリカバリーをどうするか？」という視点で見せていただきました。術後に表皮壊死を起こした場合の対処、広範囲のうっ血をきたした場合の対処、軟骨が吸収された場合の対処、小耳症以外でも耳介の部分欠損、変形を残した場合の対処など、諸先生方とも多彩な意見があり勉強になりました。

いくつか宿題をいただきましたので、また次回の研究会でご報告できたらと思います。

ランチョンセミナーは前回に引き続いて今回は先天性耳介変形の手術の実際についての講演でした。

耳輪癒着症、埋没耳、立ち耳、折れ耳、スター耳といった先天性耳介変形に対して、軟骨の形成、皮膚の形成、耳介筋の形成という3要素に整理して手術を組み立てる考え方は、とても理にかなっていて、ワンパターンの手術では対応できないこれら多彩な変形に対して、立ち向かい方を示してくれるものでした。

私自身、高度の耳輪癒着を伴う埋没耳など治療に苦労した経験があり、今回学んだエッセンスをもとにまた臨床に励みたいと思います。

ハンズオンセミナーも昨年に引き続き参加させていただきました。やはり驚かされるのは四ッ柳先生のデモンストレーションで、難なく模範モデルを短時間で作成完了してしまう、その速さと正確性に脱帽でした。

また、第1回目のライブサージャリーでも話題になっていた通称“竜宮城”という耳珠パーツの工夫ですが、実際に人参で作成されたものを見せていただきました、昨年見た時よりさらに改良が加えられていて、見た瞬間“なるほどっ！”と心の中で叫んでしまいました。

絶えず進化するその速さに驚きつつも、こちら必死についていけるよう頑張らないといけないと感じました。

全体を通して非常に密度の濃い2日間で、気の早い話ですが来年の3回目も待ち遠しく思います。今回初めて参加された先生方も多く、少しずつ本研究会の輪が広がっていくのを嬉しく思いました。今後も本研究会が大いに盛り上がり、日本全体の耳介再建のレベルの底上げに貢献することを心より祈念いたします。この度は本当にありがとうございました。

余談ではありますが、研究会のロゴデザインなかなかカッコいいと思います。早速使わせていただきますね。

2. 静岡県立こども病院 形成外科 加持秀明先生より

昨年開催された第一回耳介再建研究会に引き続き参加させていただきました。第一回と比較し、運営面でも多くの改善点があり運営サイドの熱意が伝わってきました。本研究会の発起人であり大会長の札幌医科大学形成外科 四ッ柳高敏教授、札幌医科大学形成外科教室員の方々に大変感謝いたします。

研究会の規模は、参加者 40 人程度、会場はいわゆる中会議室であり、ちょうどいい大きさでした。全日程は一日半で、内容は、一日目が午後からライブサージャリー、二日目は午前中が症例相談会、午後はハンズオン(人参を用いた小耳症軟骨フレーム形成の練習)と、盛りだくさんでした。研究会を通して、四ッ柳先生は、ご自身の知識・技術・経験を余すところなく伝えようとしており、これから耳介変形の治療を始めようとしている人だけでなく、今現在小耳症を含めた耳介変形の執刀医をしている人にとっても、大変勉強になる内容だったと思います。

ライブサージェリーは、四ッ柳先生執刀の Concha type の小耳症に対する軟骨移植術でした。モジュレーターは、会場に仙台医療センター鳥谷部荘八先生、手術室に香川大学の濱本有祐先生の2人体制で質問のしやすい環境でした。デザインは勿論ですが、切開・遺残軟骨の処理・手順・ポケット作成のレイヤー作成のコツ・剥離範囲・軟骨配置時のコツ・閉創に至るまで、教科書には書かれていない Tips が盛りだくさんであり、大変貴重な時間になりました。参加者は、別室でライブ映像を観て、適宜質問があれば質問出来る環境でした。別室には集音マイクが設置されていて、座ったまま質問出来るようになっており、私もいくつか質問させて頂きました。

ライブサージェリー自体は、耳介部の処理がメインでしたが、ライブサージェリー中のちょっとした隙間時間を利用して、肋軟骨採取の動画を観ることができるようになっていました。内視鏡を使って撮影されたであろう大変わかりやすい動画が、手術中繰り返し上映されており、肋軟骨採取も同時に勉強できるようになっていました。

症例検討会は、各施設から耳介変形、耳介再建についての症例検討会でした。各発表に対して、多くの先生から別視点での治療のアドバイスがあり、現在困っていることを解決できるいい機会になったと思います。

ハンズオンは、前年に引き続き人参による軟骨フレーム作成でした。講師である四ッ柳先生の丁寧な指導と、札幌医科大学形成外科教室員方々の手厚いサポートに、大変感謝致します。肋軟骨の代用として2夜干した人参を用いました。勿論、本物の肋軟骨とは違いはありますが、形の確認、シミュレーションは十分できるものでした。

会期中に、四ッ柳先生による日本耳介再建研究会: Japan Society for Auricular reconstruction(JSAR)の発足も報告されました。是非私も、本研究会を通して日本の耳介再建のレベルアップをはかり、世界に発信していければと思います。今後の日本耳介再建研究会に少しでも貢献できればと考えております。

今年は雪降る中の開催となりましたが、山下建先生をはじめとする札幌医科大学形成外科教室員の方々には、大変お世話になりました。耳介再建以外にも雪道の歩き方まで教えて頂きました。至れり尽くせりで大変に勉強になる研究会ありがとうございました。来年も必ず参加します！

6、主催者から

札幌医科大学 形成外科 四ッ柳高敏

第2回の本学会も無事に終わりほっとしております。第1回の際は、ライブサージャリーなど初の試みであったこともあり、トラブルが起こっても許していただけることを前提に、すでに当院に見学にお越しくくださった方だけにお声がけさせて頂いたものでした。今回は新しく参加くださる方が増えるので、事務局長の山下、秘書の菊地を中心に、会がスムーズに進行するよう、非常に早い時点から綿密に準備を進めてくれました。当科の教室員も去年の開催で大体の要領を把握していたので、みなでサポートして順調に会が進行できたと思います。まずは関係者の皆様にはお疲れさまでした。厚く御礼申し上げます。

今回は、耳に興味のある人であればきっと参加くださるだろうという最低限の宣伝として、形成外科学会総会にのみパンフレットを置きました。大勢の方が詰めかけても困りますし(といっても耳介の再建に力を入れている方はそう多くはいないと思いますが)、新規に参加いただける方が全くないと、これもまた、耳介再建の日本のレベルを上げていく!という本会の趣旨が薄れてしまいますし、蓋を開けるまではドキドキの状態でした。結果として、去年の参加者に加え、他施設から新規にお越しくくださった方が11名となり、ちょうど良い規模の会となりました。

去年のライブサージャリーでは耳垂型小耳症の軟骨移植だったので、今年は耳甲介型の軟骨移植としました。耳甲介型小耳症が、けっして耳垂型のものと比較して簡単なものではない、ということをお伝えしたかったこともあります。実際参加いただいた先生たちは、メモを取りながら熱心にご覧くださっていたようです。濱本先生、鳥谷部先生にはダブル司会として活躍いただきました。有難うございました。

来年は耳介挙上術を予定したいと思っておりますが、協力してくださる患者さんをタイミング良く組むのはなかなか大変でして…。しかも変形や有毛部の問題などが生じた症例の耳介挙上を見たいというかなりハードルの高いご要望を参加者から頂きましたが、ご要望にお応えできるものかどうか…できれば初回手術で全例そういう問題が生じないような結果となることが目標なのですが。

モニターの数を増やして少人数で見るという試みもまずまずの評判だったので、また来年工夫をして、より質問が出やすい会場作りを目指したいと思っております。唯一私の早口の声が聞き取りにくいというのが問題だったようで、これは私がせつち改善に取り組むしかなさそうです、が可能かどうかはわかりません(笑)

症例検討会では、通常の学会と異なり、考察など面倒なことは抜きで、問題症例や相談症例を提示して、ディスカッションの時間を満足できるだけ取る、ということで、かなり時間の余裕を取って

行いました。もし時間が足りなくなったら当科で出した演題は取り下げてもいい位の気持ちでした。そこまでは至らなかったものの、相談症例に対して、多くの意見が出たり、また例えば感染に対する考え方を討論する、など普段はなかなか表には出てこないような話が出て、演題の趣旨からはしばしば脱線したものの、おそらく出席者の方々は充実した時間になったものと思っております。

人參教室は最後に行いましたが、今年の参加者は昨年より明らかにレベルを上げられていることが、見ただけでわかりました。それらの方は実際に臨床でも経験を積まれていて、自信もつけてきているのでしょう。さりげなくオリジナルの工夫を加えて綺麗な立体感を出している先生もいて感服しました。皆楽しそうにやっていたのが印象的でした。また、完成させて陰圧をかけて自分の耳を見るところまでもっていかうとかなり本気でした。

来年の日本耳介再建研究会は11月8、9日に行うことに決まりました。基本の構成自体はそう変わらないとは思いますが、さらに質の高い会になるよう心がけますので、どうぞまた来年も濃い2日間を共に過ごしましょう。



平成30年11月22日～23日 第2回日本耳介再建研究会 於：札幌医科大学